

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和6年度

法人名	社会福祉法人 正清会	代表者	三好 正規	法人・ 事業所 の特徴	同じ場所で顔馴染みの利用者と職員同士が、通いを中心に訪問や宿泊といった支援により、継続的に関わる中でひとり一人に寄り添い、気持ちに引き合い暮らしの中に楽しみが見出せるよう支援いたします。 介護する者、介護される者の関係ではなく、「共に生きる」事を目指します。
事業所名	多機能ホーム 遠波の里白松苑	管理者	藤本 龍史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	4	5	人	1人	1人	人	2	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	基本的な感染対策をおこないつつながら少しずつ外出支援を行って行きたい	コロナも緩和され、少しずつではあるが利用者の外出やボランティアの受入れ、地域行事への参加が出来ている	コロナもあり、なかなか外への活動が制限されているのだろうが、利用者と職員を外で見なくなった。A=1の計画が抽象的	外出機会やボランティアの受け入れ、地域行事への参加を増やしていく。コロナ前の頃に戻す
B. 事業所のしつらえ・環境	地域関りシートの内容の見直し	内容が分かりにくかった	事業所は入りやすい雰囲気とは思いますが、いつ開いているのかなど分からない事がある	今以上に入りやすい施設を目指す。(しつらえ、来苑可能時間のお知らせ、広報にてイベントの告知、運営会議にてお知らせ)
C. 事業所と地域のかかわり	職員も地域のイベントや行事に参加し地域との交流の機会をもつ	コロナも緩和され、少しずつ行事やイベント(地区の文化祭等)に参加できるようになった。	運営会議にて色々な活動をされているのは分かるが、依然として外出が少なくなっている気がする	職員も地域のイベントや行事に参加し地域との交流の機会を持つ
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	基本的な感染防止をし、ボランティアの受け入れや外出支援、地域との交流の機会をもつ	宇部空港のバラ園や、道の駅などに出掛けた。 スーパーの移動販売が苑に来るようになり利用者の出掛ける機会に役立っている	看板を大きくしたり、買い物やお寺周りなど、バスを利用して宣伝したり、アピールは必要なのは。外に出る機会が増えれば何をしているか活動している事が見える	基本的な感染防止をし、ボランティアの受け入れや外出支援、地域との交流の機会を持つ
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を再開し、地域の方と交流し情報交換や意見を頂く	コロナも5類になり、運営会議を通常通りに行っている	事業所の取組みが分かりやすく説明されている	運営会議にて、地域の方と交流し情報交換や意見を頂く
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する 防災訓練を実施し意識を高める	施設の防災計画を知ってもらう機会がない。以前、参加したが地域の防災訓練に参加していない	施設の方は、施設の中で避難しているという考え方が出来るのでは、自宅の中で避難するという自宅避難と一緒に考え方でよい	地域の防災訓練に参加する 防災訓練を実施し意識を高める

